

誕生 フ ア ツ シ ヨ ン

く 紡ぐ、織る、染める

例言

- 本書は、2025年10月18日から12月14日まで、あいち朝日遺跡ミュージアムで開催する企画展「弥生ファッション～紡ぐ、織る、染める」の展示図録である。
- 本書の構成と実際の展示構成とは異なる部分がある。掲載写真は展示品の全てではない。また、参考として展示品以外の写真も掲載している（本館常設展示品を含む）。
- 本書の時期区分は、弥生時代前期（BC.6～BC.4c）、中期（BC.4～BC.1c）、後期（AD.1～2c）、終末期（AD.2～3c）とするが、他地域の出土品は所蔵者の見解に従うものであり、各地域の並行関係は厳密なものではない。
- 掲載資料のうち国宝および重要文化財には「◎」、市の文化財には「○」を付している。
- 掲載写真・図版の出典、提供は巻末の図版資料一覧に掲載した。
- 本書の執筆・編集は松本彩が行い、原田幹が補佐した。

ごあいさつ

布を織る技術は、縄文時代の終わり頃に大陸から導入され、弥生時代に全国へと広まりました。縄文時代にも編む技術はありましたが、機織り具^{はたお}を使って織る技術が導入されたことは、布づくりの画期的な進歩だったと考えられ、それ以降、目の細かい布は機織り具でつくられるようになりました。

本企画展では、弥生時代の遺跡から出土した布づくりに関する道具や、布の痕跡が付いた土器などを展示し、弥生時代の機織りの技術や染色の技術を紹介するとともに、当時の人々が身に着けていた様々な装身具を展示し、弥生時代の人々がどのようにファッションを楽しんでいたかを紹介します。

本企画展の開催にあたり、ご協力いただきました所蔵機関をはじめ、関係者、関係機関に厚く御礼申し上げます。

2025年10月18日

あいち朝日遺跡ミュージアム

目次

例言	2
ごあいさつ	3
目次	4
I 紡ぐ	5
文献に見える弥生ファッション	6
糸の素材	8
糸を紡ぐ道具	12
II 織る	15
経糸を揃える	16
布を織る	18
III 染める	27
布目の痕跡	28
布目の痕跡からわかること	30
糸や布を染める	33
IV 弥生ファッション	39
髪を飾る	40
身を飾る	41
沓を履く	44
資料	45
遺跡位置図	45
資料目録	46
写真・図版目録	47
主な参考文献	48
協力者一覧	48



紡ぐ



1 カラムシからとった糸